



「大切な出会い」

看護部長 田中 恵子

看護職として現在の私があるのは、多くの患者さまとその御家族、共に働いてきた職員、看護学生、友人と出会い、育てていただいたおかげです。

働きはじめた頃は、診療の補助のための注射や点滴などは下手で、何度も失敗をする私に、「ゆっくり何回でも刺していいよ」とそっと腕を出してくださる方が一人と言わずみえました。今では自信が持てる看護技術のひとつです。

一人っ子の将来を期待されながらも19歳でお別れた青年とそのご家族の悲しみ。

夜間尿器を使用され、自分の尿を人に処理させたくない、「銀座までお散歩に行ってきます」と酸素ボンベを押しながら汚物室まで歩いていた貴婦人との出会い。

肺の長時間の手術に耐え、どんなに息苦しくても笑顔絶やさず前向きに考える方。

警察官のご主人は職務中の事故に遭われ、結婚一年目の身重の患者さま。

出会った患者さまのおひとりおひとりから人生観・価値観・倫理観を教えていただき特に死生観について学ばせていただきました。

また、病棟に10年以上入院している患者さまが「息

子が総檜作の家を建ててくれた」と嬉しそうに話されていましたが、なかなか退院しようとはなさいません。年末年始をきっかけに外泊を勧めると、そのまま退院されましたが、退院後3年目に救急入院されました。酸素マスクをしながら「今度入院するときは最後と決めていた。3年間家に居られる様にしてくれてありがとう」と言い残されました。場合によっては**看護師の後押しが必要であることを教えてくださったと思っています。**

看護学校の教官として出会った学生には、理想の看護師像を描きながら育て、時にはハラハラしながらも見守り、日々成長していく姿に期待しました。現在はそれぞれ活躍しています。「辞めたい、辞めたい」と連発していた学生に限って看護師を辞めずにいます。

職場は組織を重視しますが、**他職種**との出会いも大切です。転勤族には二度、三度同じ職場で勤務することがあります。数十年ぶりに再び一緒に勤務できる方々との出会いがありおかげさまで楽しく仕事をしています。

相手に耳を傾け、相手がどのような感情を持っているか、相手の価値観や判断力を知り、相手の意思を知り、言葉以外の行動にも目を向け関心を持ち傾聴する姿勢をなくすことなく、これからも看護を続け、多くの出会いを大切にしていきたいと考えています。



ホスピタルコンサート2012

「緑ヶ丘特別支援学校の児童生徒・職員によるクリスマスコンサート」

12月19日、外来ホールにて恒例のクリスマスコンサートを開催しました。

今年はリコーダーアンサンブルグループ「フエフキーナ」さんを特別ゲストにお迎えし、クリスマスソングやディズニー音楽をリコーダーで演奏していただきました。

後半は、緑ヶ丘特別支援学校の皆さんによる器楽合奏や、ピアノ・ギター独奏、小学部の子供達達の振り付きの合唱や感動の全体合唱など盛りだくさんな内容で、とても素敵は時間を過ごすことができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



生徒さんと先生方による器楽合奏
サンタのお帽子でさらに盛り上がり

医療福祉相談室 だより

医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。子どもの病気(難病・障がい・こころの病気)に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。



「置かれた場所で咲きなさい」

渡辺和子 / 幻冬舎

標題に続く詩は「咲くということは、仕方がないと諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすることなのです」。置かれた場に不平不満をもち、環境の奴隷になるのではなく、自分が環境の主人になる。現在85歳、9歳の時2.26事件で目の前で父を失い、30歳間際に修道院に入り渡米、36歳で大学学長となった著者ですが、1つ1つの言葉があたたかく心に染みこんでいきます。

(ソーシャルワーカー 高村 純子)



リコーダーの演奏
真っ赤なお鼻のトナカイさんは

お詫び / 2012年12月号・2ページ掲載の写真「身長測定」の写真が間違っていました。お詫びさせていただきます。